

令和 6 年度 第 3 回 中城御殿跡地整備検討委員会

世持橋高欄設計について

1. 世持橋高欄設計事業概要
2. 部会における世持橋高欄の検討概要
3. 世持橋高欄整備の方針
4. 羽目下絵及び原型製作状況

1.世持橋高欄設計 事業概要

【事業内容】 龍潭周辺整備の一環となる世持橋高欄の整備のための設計を行う。

また、検討部会において高欄再現の方向性・意匠および素材の検討を行う。

【事業期間】 設計業務：令和6年9月6日～令和7年3月25日

【事業主体】 沖縄県首里城復興課 （設計業務受託者：（株）国建）



写真 世持橋（戦前撮影、那覇市歴史博物館提供）

2. 部会における世持橋高欄の検討概要（資料1R6検討委員会概要_P8部分再掲）

● 第1回検討部会（2024年11月 委員個別ヒアリングによる）の議題と主な意見

< 高欄の整備位置について >

- ・ 片側設置（龍潭側）でよい。
- ・ 龍潭側高欄は、既存柵を撤去しその位置に整備することが望ましい。その上で、転落防止機能を別の施設に持たせる。
- ・ 高欄の景観を妨げない形状の転落防止施設を確保する（強化ガラスなど）。

< 高欄の素材・形態について >

- ・ ニービを採用し、彫刻を再現することを重視する。世持橋は彫刻が優れているのが特徴であり往時のものを再現する方針とする。
- ・ 彫刻は両面彫るべきである。

● 第2回検討部会（2024年12月23日開催）の議題と主な意見

< 高欄の整備高さについて >

- ・ 地覆石が地面に載る構造とすべきだが、そうすると高欄位置が高くなりすぎて圧迫感が生じる。地覆石の厚みを縮小するなどしてバランスのとれた高さを設定すべき。その際、隣接する既存柵との調和にも配慮する。
- ・ 強化ガラスは予算に合わないため、隣接する既存柵と同様の素材形態を了承。最小限の施設となるよう工夫する。

● 第3回検討部会（2025年2月12日開催）の議題と主な意見

< 高欄の設計案について >

- ・ 高欄高さ、地覆の厚み、転落防止柵を両端のみに配置することなどの設計案を確認した。
- ・ 道路勾配との兼ね合いについて、中央部で高さを合わせる。また羽目石形状がいびつにならないよう高欄自体は傾けない。

< 下絵進捗について >

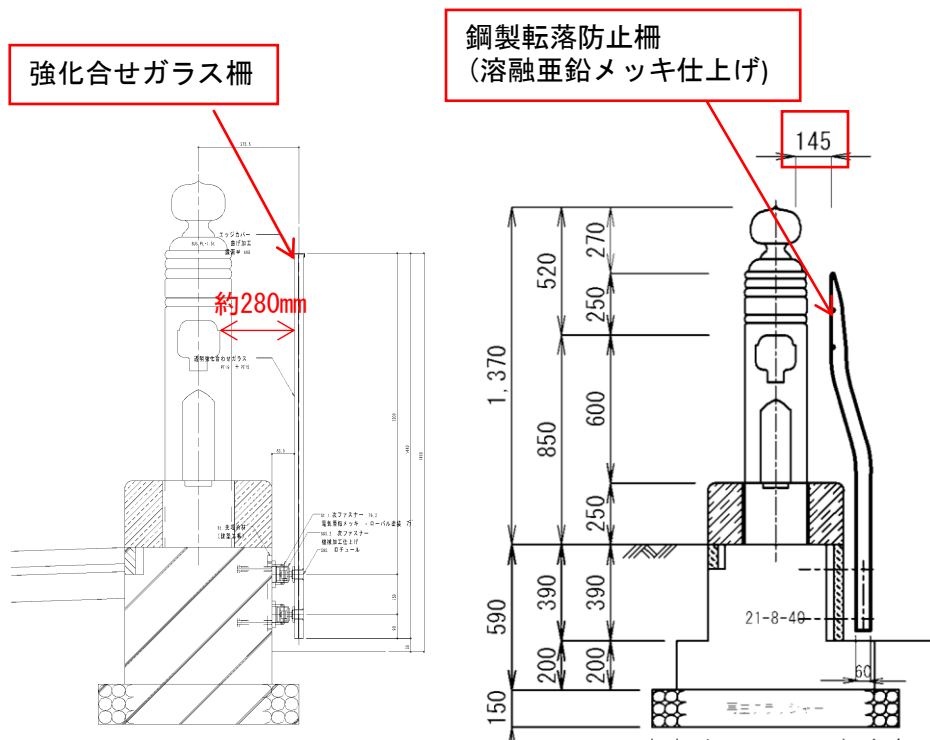
- ・ 下絵の進捗状況を確認した。文様には類似パターンもある一方、同じ波文でもそれぞれ異なることなどに留意する。

3.世持橋高欄整備の方針

部会での議論を通じ、以下を整備方針として設計検討を進める。

- 龍潭側の高欄を整備対象とする。高欄整備部分の歩道幅員は前後と同様の幅を確保する。
- 遺物と同じ素材である二ービを用い、遺物及び古写真等の史料を活用して、往時の姿をできるかぎり再現する。中でも羽目彫刻の再現を優先する。
- 道路内に配置するものとして、安全性に留意する。
- 転落防止機能は別の施設にて確保し、かつ歴史的景観を阻害しないよう工夫する。

▽転落防止柵の比較検討（結論→鋼製）



高欄位置（高さ）の比較検討（結論→A・B折衷案）

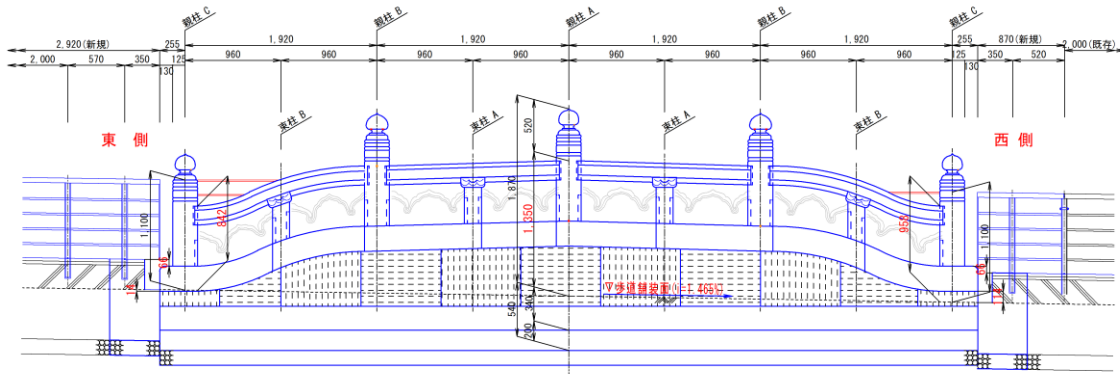


3.世持橋高欄整備の方針

● 高欄設計図・パース

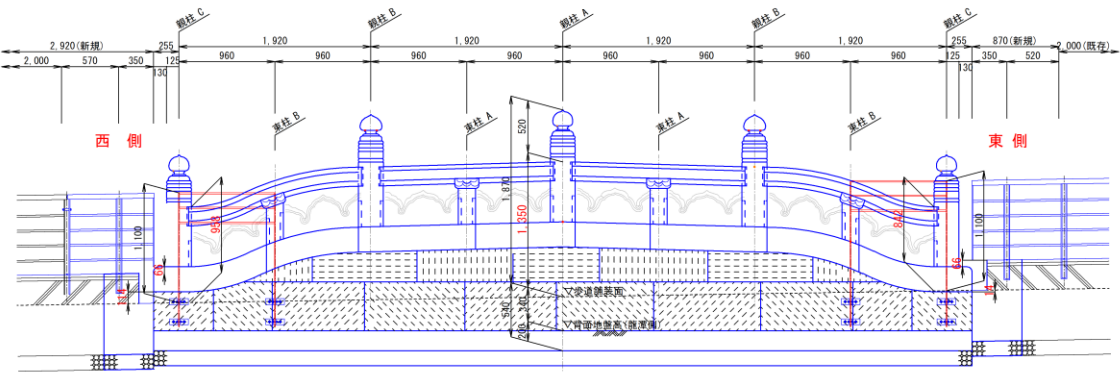
立面図

(正面)



立面図

(背面)



■イメージスケッチ (道路側から見る)



■イメージスケッチ (龍潭側から見る)



4. 羽目下絵及び原型製作状況

- 羽目下絵及び原型の制作は、沖縄県立芸大に委託し実施している。現在、2回の監修を終え、残り2回実施予定。
- 文様の配置は、安里委員の解析や過年度検討を参考に設定した。
- 遺物、古写真、拓本を参考にして下絵を作成した。資料のない部分については類似文様からモチーフや表現特性を分析して作成している。またモチーフがはっきりしないものは、自然科学の専門家にヒアリングするなどして検討。
- 下絵→粘土塑造→石膏原型の手順で進めているが、粘土塑造の過程で判明した事項は下絵や設計にフィードバックしている。

下絵写真



塑造写真



監修風景

